



予算要求の取組み 分会ヒアリング

7月10日(金) 予算要求の分会ヒアリングが行われた。今年のヒアリングは新型コロナウイルス感染症予防で人と人の距離を確保するため市労連会館5階講堂で実施した。

組合の予算要求は、次年度の市歳入予測をもとに歳出を決定する予算編成の際、組合の視点から職場に必要な人と物をつけるための武器となる重要なプロセス。分会ヒアリングでは、これからの川崎市における廃棄物事業のあり方を見据えて様々な話し合いが行われた。また、職場が今、困っていることも話題に挙がり、活発な議論となった。

普通ごみ収集運搬業務の委託

令和3年度から大規模集合住宅のコンテナ収集現場が委託されることから、当該分会から専属のモニタリング要員の配置に係る要求がなされた。普通ごみ収集で初めての委託であり、コンテナ現場は、相手方所有物であるコンテナを壊しやすい特徴があることから、正しい収集方法で集められているかどうかも含めてのモニタリング要求。また、委託化に伴い、万一、委託業者に不備があ



川崎市職員労働組合
清掃支部
発行
川崎市川崎区東田町 7-2
東田ビル 2階

電話 044(222)5906
発行責任者 渋谷 勝美
編集責任者 稲葉 拓也



清掃支部ホームページ
QRコード



った場合、所管する生活環境事業所に中型収集車が必要となることから、それに関わる対応も必要であることが話し合われた。さらに、収集業務における人員の余力の持ち方について話題となり、中型収集車の小型化と搬入効率の課題を踏まえながら中型コンテナが委託化された後、車両と人員をどう残すかが焦点となることが確認された。

入江崎のあり方

廃棄物事業のあり方にも掲載されている入江崎クリーンセンターの施設更新について、延命化なのか移転なのか定まらなければ予算要求の内容が変わってしまうという課題が挙がった。入江崎は竣工から40年経過しており、建屋と設備の老朽化が進行していることから、延命化するので

あれば基幹整備が必要となる旨の話がなされた。

その他(人員要求・安全衛生等)

現在、欠員が発生している分会(中原・本庁)から欠員補充の要求がなされた。

安全衛生の課題としては、本庁分会から組合員が職場巡視や工事立会いの際に現場で必要となるヘルメットやマスクなどの保護具を現場の組合員と同様に支給してほしい旨の要求がなされた。また、

安心できる直営に向けて

職場安全パトロール開催

多摩分会からは坂道停車の際に必要な歯止めについて、予備品がないためストックの確保をしてほしいと要求があった。浮島分会からは、槽のマンホールが丸いため清掃時設置する梯子がかかりにくく槽内へ転落する危険があることから、マンホールを四角いものへ変更してほしい旨、要求がなされた。さらに、トイレの洋式化と空調設備の更新や修理を求める声が多く、分会から挙がった。

▲ 事故現場 安全パトロールの様子

進するとき左正面から横断してきた自転車と接触する事故やポールとの接触事故、集積所にバイクする際に後方からきたバイクとの驚愕事故の状況が現場で確認された。

▲ 分会要求説明の様子

7月16日(木) 環境局安全衛生委員会廃棄物部会の職場安全パトロールが生活環境事業所で行われた。パトロールは車両事故現場を中心に行われ、集積所から発

パトロール後に行われた意見交換会では、車両を停車位置から動かすときには、運転手が周囲の安全を確認すると同時に、作業員も運転手と連携して安全確認を行うことが車両事故を防ぐために大事という意見が挙がるなど、危険な現場、その場の状況判断など多種多様な事故要因がある中で、事故の少ない安心できる直営に向け支部・局一体で取組む認識が確認された。

直営をよびよせる

仲間達 (355)

加瀬分会

新山 善昭

(にいやま よしあき)

こんにちは加瀬分会です。今回、紹介する仲間は新山善昭さんです。新山さんは、入庁時は高津清掃事務所に配属されました。その後運転手として中原生活環境事業所に異動しロードスイーパーも運転していたとのこと。その後、移行促進員と推進員を中原と川崎で15年間勤め、出前ごみスクールでは中原・川崎区で全校制覇を成し遂げました。環境局一筋で35年間仕事をして、無事に定年を迎えました。今年の4月よりフルタ

分会だより

川崎分会

No.198



川崎分会です。今回は川崎市で1台しかないEV車の紹介をしたいと思えます。浮島処理センターでゴミを燃やして発電した電気を、処理センター内に設置した電池ステーションで充電し(世界で唯一)その充電池を使って100%電気です。地球環境にやさしい収集車です。ただし、充電池の重量の関係で最大積載量が1350kgになっていきます。川崎市の重要政策としてEV車の広報も兼ねて川崎区内の重要拠点を中心に再任用

イム再任用職員として加瀬クリーンセンターに異動して再出発となりました。今の気持ちを伺ったところ、

「四か月が経ち慣れてきました。少し安心した様子で話していただきました。」

これからも安全運転に勤め無事故・無違反を目指し頑張っていたきたいと思います。

①、②、③、④、⑤、⑥

①年齢、②入庁年度、③分会役員、④職種、⑤業務内容、⑥趣味、最近ハマっている事。

職員のとてやさしい先輩方が収集をおこなっています。

珍しい車ですので、市民の皆さんからの注目度も高く、川崎駅前商店街、川崎の顔である川崎大師平間寺周辺の普通ゴミ収集をしていると、市民の方から写真撮影を依頼されたり、興味のある方から質問攻めにあたりします。川崎分会としても高い意識をもって運用を頑張っています。川崎区内で見かけたらぜひ、手を振ってみてください。きっとふり返してくれますよ(笑)。

隣にいる仲間を想う

〜在日外国人と日本人は国籍・民族を超えていけるか〜

第26回

林慶一

●向かい風のとくに飛ぶはたして日本で通用するか

そうして出した結論は、自分ありのまま見てくれる会社を探すといいものでした。

なぜなら高校生の頃、日本の名前アルバイトをしていてことを思い出したのです。日本名で過ごす自分が自分ではないような気がしていつもモヤモヤしていました。このモヤモヤを抱えたまま進んでいくのはやはり不可能です。朝鮮に全く関係のない世界でも朝鮮人としてのありのままの自分がどこまで通用するか、とことん探して頑張ってみようと思ったのです。これまでの就職活動の経過からすると厳しい道になるのは必至です。まさに冒頭のスキージャンプで例えると、吹雪の悪天候、激しい横風で最悪のコンディションというところでしょう。それでも、まさに今だ！と言えるような「向かい風」が来ればうまく飛べるのかもしれないとヨンスは思うのでした。

●出会いを大切にしたい！お互いに成長できる関係

「ヨンスヤ・チョナバド(ヨンス電話だよ)日本から！」ソウルで一緒に住んでいる正確には居候くヨンスンが日本からの国際電話を取り次いでくれました。家族からの電話だと思い、「なに？」と話しかけると、日本で面接した会社から聞いたとのこと、予想もなかった電話に驚き、失礼な電話対応を謝りながらも要件を聞くと、「ウチでぜひキムさんを採用したい」という連絡だったのです。

ヨンスは新学期準備のため、その面接の翌日にソウルに戻ってきていました。日本滞在中は就職活動に励んでいましたが、なかなかうまくいきませんでした。それでもいくつかの会社を訪問し、面接までこぎつけていました。日本での就職活動の方針として、朝鮮人としての自分ありのまま出していうと決めていたので、少々時間がかかってこそそんな自分を受

(次号へ続く)